

東京外語会主催 文化講演会

## 「周縁化された人びと一筋・猿引きと地域社会」

講師 吉田ゆり子 東京外国語大学総合国際学研究院教授  
(日本近世史)

日時：12月12日(土) 午後2時—4時(続いて懇親会)

場所：東京外国語大学本郷サテライト4階



### プロフィール

1982年お茶の水女子大学文教育学部史学科卒、1987年同大学院博士課程単位取得退学、1987年お茶の水女子大学人間文化研究科助手、1990年日本学術振興会特別研究員PD、1991年東京外国語大学外国語学部助手、1993年同講師、1996年同助教授、2001年東京大学大学院人文社会系研究科にて学位博士(文学)取得、2002年東京外国語大学外国語学部教授、2009年以降現職。主な著作として『兵農分離と地域社会』校倉書房・2000年、『兵と農の分離』山川出版社・2008年、『日本近世の家と女性』山川出版社・2015年出版予定、共編著『画像史料論—世界史の読み方』東京外国語大学出版会・2014年、共著『日本の近世』日本放送出版協会・2007年、『「筋」—周縁化された芸能者と地域社会—』『思想』1084号・2014年、「幕末外交と『倭夷之差別』」(『シリーズ遊廓社会』吉川弘文館・2014年)、他論文多数。

### 講師からのメッセージ

「東京外国語大学で日本の歴史を教えています」と大学の外で挨拶をすると、不思議な顔をされます。学内でも、当初自分の位置をつかみきれませんでした。24年勤めているうちに、「世界に羽ばたき仕事をし、共に生きてゆくためには、まず日本のことを知る必要がある」と言うことができるようになりました。特に、7.8年ほど前から日本の文化財行政に関わるようになり、教養科目として文化庁の専門調査官と府中市の学芸員の方々をお招きして、「日本の文化遺産」という授業を今年開きましたところ、270人近い学生さんが受講しており、学生の関心の高さを知りました。

今回は、日本の伝統社会にみられた正月の祝福芸である万歳や猿回しをになった「筋」や「猿牽」に注目し、地域社会に生きた芸能者の周縁的な位置を明らかにし、日本の伝統社会がもった固有な問題と今日への影響を考えていきたいと思います。

具体的には、信濃国(現、長野県)南部の飯田・下伊那地方の歴史を手がかりとしてお話ししてゆきますが、ここには日本の伝統社会がもった固有な問題とともに、世界諸地域にも普遍的な問題として、地域社会のあり方を考えることにつながると思います。都市への人口集中により、地方は過疎や高齢化し、地域社会の持続性は危機に瀕しています。日常的な生活と生産をともにする地域社会とはどのような存在だったのか、社会の周縁から見直してゆきたいと思います。